

マルコの福音書
第8回 イエスとレビ
(2:13~17)

《アウトライン》

1. レビの招きと応答 (13-14 節)
2. レビの家での宴会 (15 節)
3. 律法学者たちへのメッセージ (16-17 節)

《結論》 「悔い改め」の大切さの再確認

《聖書研究メモ》

「取税人」について

- ・ ローマ帝国の直轄領や、ローマ帝国が領主を通して治めていた地で、税金を取り立てる役人のこと。
- ・ レビはガリラヤ地方の領主であるヘロデ・アンティパスに仕える役人だったと思われる。
- ・ 当時、取税人は民衆から忌み嫌われていた。
 - 理由1) 納める以上の額を騙し取り、自分の給料としていたから。
 - 理由2) ローマ帝国の手先として働いていたから。

2:14

- ・ 今回の並行箇所はマタイ 9:9-13 とルカ 5:27-32。
- ・ 「アルパヨの子レビ」
 - ルカ 5:27 では単に「レビ」。マタイ 9:9 では「マタイ」と呼ばれている。
 - 彼は、マタイの福音書の著者のマタイその人である。
- ・ ルカ 5:28 するとレビは、すべてを捨てて立ち上がり、イエスに従った。

2:15

- ・ 「食卓に着かれた」→ギリシャ語で「カタケイマイ」。横になるという意味。
- ・ 「罪人たち」→古代ユダヤ教パリサイ派の口伝律法に違反していた人々のことだろう。
(口伝律法とは、モーセの律法を確実に守らせるために律法学者たちが作り出し、口頭で伝達されていたルールのことである。)

マタイの福音書 19:28

そこでイエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。人の子がその栄光の座に着くとき、その新しい世界で、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族を治めます。